

竹林の風

～ すべては学校のため すべては子どもたちのため ～

栃木県教育委員会事務局
河内教育事務所
令和6年2月7日
発行責任者 西村和孝
http://www.pref.tochigi.lg.jp/m51/
kawachi-kyouiku@pref.tochigi.lg.jp

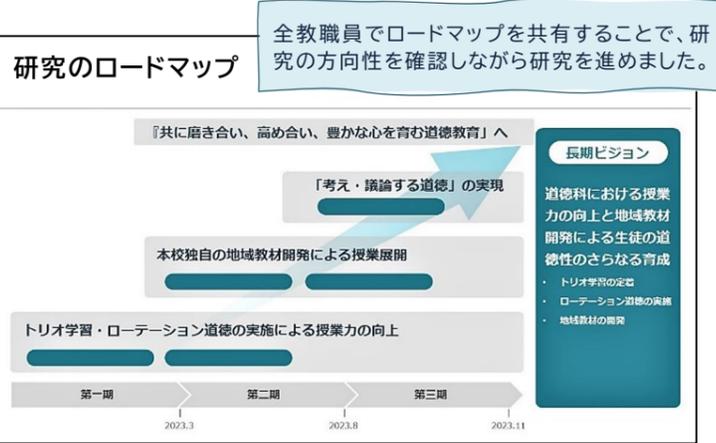
第73号



文部科学省「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」/ 栃木県教育委員会「特色ある道徳教育支援事業」

道徳教育研究発表会 上三川中学校

令和5年11月17日（金）に上三川町立上三川中学校で道徳教育研究発表会が開催されました。同校では、指定を受けて令和4年度から令和5年度の2年間にわたり研究を進めています。発表会では、研究主題「共に磨き合い、高め合い、豊かな心を育む道徳教育」の基、地域の特色を生かした道徳教育の推進に向け、教材開発等に取り組んできた成果が発表されました。



【地域の特色を生かした教材開発】



東京都東久留米市の「吉澤章折り紙ギャラリー」を訪問し取材を行いました。



吉澤さんの自画像



生涯学習課文化係の協力を得て、吉澤さんの作品を展示

地元ゆかりのある先人や地域人材を取り上げるなど、人々の生き方や考え方に触れることのできる教材を作成し、これを活用した授業展開の研究を行ってきました。

教材作成の一つとして、吉澤章氏の読みもの資料の作成に取り組みました。吉澤章氏は、上三川町出身の折り紙作家です。日本国内の創作折り紙第一人者であると同時に、折り紙を世界中に普及させることに尽力し、“ORIGAMI”を世界共通の言葉にしました。

【研究発表会での公開授業・全体会】



全学年で授業を公開！



3人のグループで話し合う学習形態。考えを述べると同時に多様な意見に耳を傾け、自主的で協力的な雰囲気のなか議論する様子が見られました。



全体会の様子

県内各地からおよそ200名が参加



ゲストティーチャーとして地域の方も参加



実際に折り紙に触れながら授業を展開

今こそ伝えたい、「教職員の思い」

河内教育事務所では、定年の段階的な引上げに伴い、今年度その対象となる先生方との面談を実施しました。また、例年、新規採用教職員との面談も実施しており、こちらと合わせますと、多くの先生方から様々な思いを伺うことができました。

教師のなり手不足が問題となっております。また、大変遺憾ではありますが、教職員の不祥事が発生しております。これらのニュースを耳にして、心を重くされている先生方も少なくないのではないのでしょうか。そこで、本号では、面談等で伺ったお声の中から、我々教育事務所職員にとって励みとなった言葉を紹介します。これらの言葉が皆様にも明るい風を届けますようお願いしています。



●新規採用教職員の声●

- ・中学校時の先生に憧れて、教員を志望しました。大学時の教育実習とは違い、日々大変です。うまくいかないことも多く、目の前にあることをやるだけになりがちです。しかし、生徒たちのためと思うと、とてもやりがいを感じます。
- ・子どもたちのために頑張ろうと思っています。児童指導で悩んでいるとき、先輩の先生に親身になって寄り添っていただき、本当にこの学校の職員でよかったと思いました。

●定年引上げ対象となる教職員の声●

- ・退職して子どもたちと離れると、寂しさを感じるのではないかと思います。健康であり、学校に迷惑をかけないようであれば、最後まで大好きな子どもと共にある生活を過ごしたいと思っています。また、教員離れが進む中、少しでも学校の力になれるのであれば、教員をやり続けたいです。
- ・まだまだ仕事はできると思っています。ICT機器の活用にはあまり自信がありませんが、若手教職員の育成をしながら、ICT機器の活用方法を勉強し、また教科担任として勤務したい。少しでも学校の助けになりたいと思っています。
- ・今後は、先生方や子どもたちが「学校生活が楽しい」と思えるよう、支えていきたいと思っています。また、今は後進の育成を考えていますが、いつかは教壇に戻り、子どもたちのために頑張りたいとも思っています。

多くの子どもたちが、いつも笑顔で自分らしく安心して学校生活を送ることができるのは、先生方お一人お一人のお力添えがあってこそと感謝しております。

そして、その先生方の取組を支えているのは、教師という仕事の重みと責任、そしてやりがいであることを、先生方との面談を通して改めて感じました。

我々職員も、その思いを共有しながら、先生方を支える立場として、誇りをもって日々の業務に当たっていきたくと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



教職員一人一人の誇りと品格は教育への信頼を確たるものにする